

令和5年度宮崎県外部評価資料

外部評価対象プロジェクト名

プロジェクト1

活力ある農業・農村地域確立のための多様な担い手の育成とサポート機能の強化

(対象期間: R3～R7)

プロジェクト2

延岡たまねぎの新たな生産・出荷体制の確立

(対象期間: R3～R7)

令和5年11月13日

東臼杵北部農業改良普及センター

目次

I	地域農業の概要P1～2
II	普及センター組織図P3
III	プロジェクト一覧P4～5
IV	プロジェクト設定の手順P6
V	プロジェクト1 「活力ある農業・農村地域確立のための多様な 担い手の育成とサポート機能の強化」P7
	① 普及計画の概要	
	② 主な取組と現在の状況	
	③ 今後の課題と対応方向	
VI	プロジェクト2 「延岡たまねぎの新たな生産・出荷体制の確立」P20
	① 普及計画の概要	
	② 主な取組と現在の状況	
	③ 今後の課題と対応方向	

I 地域農業の概要

東臼杵北部地域

宮崎県の北東部に位置

- ・平成18年
旧延岡市、北方町、北浦町
が合併
- ・平成19年北川町が編入
- ・**延岡市1市が管内**

沿海から山間部まで変化に富んだ地理条件

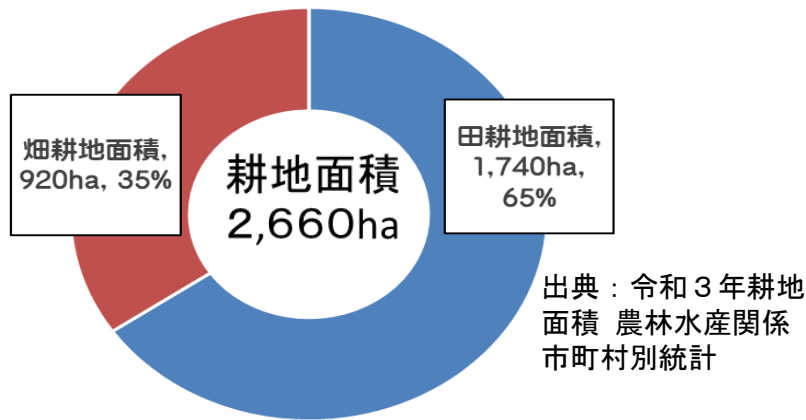
小規模な水稻経営が多いが、
受託を引き受ける大規模水稻
経営も存在



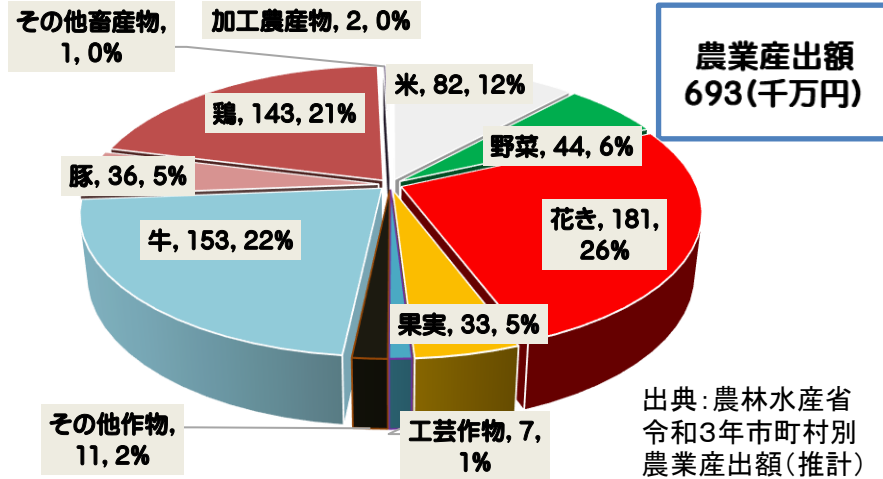
I 地域農業の概要

- 管内(延岡市)の耕地面積は**2,660ha**で、田が**1,740ha**、畑が**917ha**。令和元年に比較し、**1.5%(40ha)**減少した。
- 令和3年の管内の農業産出額は**69億3千万円**であり、本県の農業産出額3,479億円の**約2%**となっている。
- 基幹的農業従事者数の減少が進んでおり、70歳以上の割合が**約6割**と生産力の低下が懸念されている。

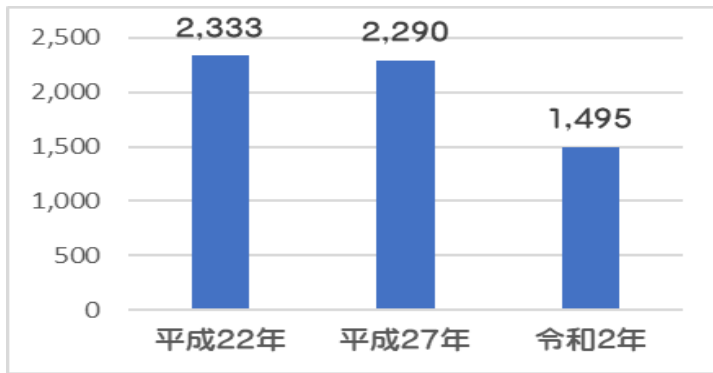
管内の耕地面積



農業産出額の品目別構成(令和3年)

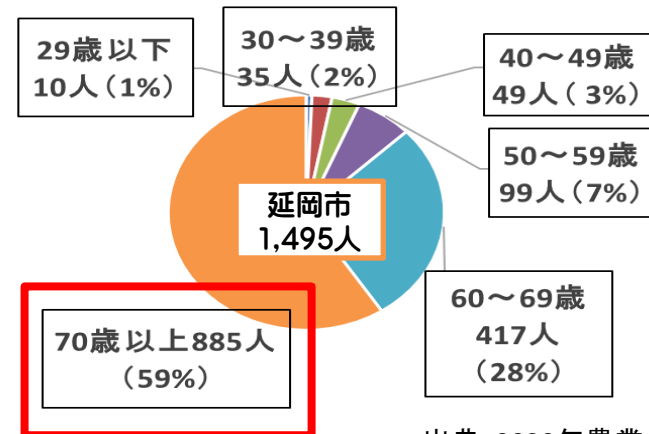


管内の基幹的農業従事者数の推移



出典：2010、2015、2020年農業センサス

管内の基幹的農業従事者数



出典：2020年農業センサス

II 東臼杵北部普及センター組織図

東臼杵農林振興局長

独立庁舎

振興局次長
兼 普及センター所長

○普及センター
職員数 13名

○特徴

- ・1課体制で3つの担当
- ・地域支援担当が品目(作物・野菜・果樹)の副担当として、所内連携を強化

○地域農業支援課 課長

- ・地域支援担当 5名(うち庶務1名)
(担い手、労力確保等地域課題)
- ・農畜産経営担当 3名
(畜産、作物、茶等)
- ・園芸経営担当 3名
(野菜、花き、果樹等)

Ⅲ プロジェクト一覧

県八次長計の実施方針

東臼杵地域別ビジョンの重点施策

普及指導活動計画 プロジェクト名と普及課題

1 人材の育成と支援体制の構築

1 多様な人材の育成とサポート機能の強化

【総合1】 活力ある農業・農村地域確立のための多様な担い手の育成とサポート機能の強化

① 新規就農者の確保・育成	① 就農希望者の確保 ② 新規就農者の育成・定着
② 中心的経営体の維持・発展	① 経営管理能力の向上 ② 集落営農組織の経営安定 ③ 労働力(農福連携含む)の確保 ④ 経営資源承継システムの構築

2 みやざきアグリフードチェーンの実現

2 産地革新の実践と販売力の強化

【総合2】 担い手減少時代における生産性向上を目指した水田利用型農業経営の推進

① 生産規模の拡大による目標所得の確保	① 規模拡大を目指した作期分散や労力配分の適正化、改善技術の導入 ② 水田の基盤整備、農地中間管理事業の活用による営農ビジョンの策定と実施支援
② 技術改善、農地の有効活用による生産性の向上	① スマート農業の導入 ② 農地利用最適化推進のための品目作付と面積拡大、品質・収量の向上

3 力強い農業・農村の実現

3 持続的で魅力あふれる農業・農村づくり

Ⅲ プロジェクト一覧

県八次長計の実施方針

東臼杵地域別ビジョンの重点施策

普及指導活動計画 プロジェクト名と普及課題

1 人材の育成と支援体制の構築

1 多様な人材の育成とサポート機能の強化

【専門1】 肉用牛繁殖の生産性向上
①分娩前後の母体管理の徹底 ②子牛哺育期の管理徹底
(給与診断に基づく繁殖ステージにあわせた栄養管理、飼養環境の改善)

2 みやざきアグリフードチェーンの実現

2 産地革新の実践と販売力の強化

【専門2】 所得向上を目指した延岡茶の産地再編と販路開拓
① マーケットインを意識した茶生産
(省力的かつ低コスト、消費者を意識した茶商品の生産、輸出を意識した栽培暦の作成)
② 競争力のある茶産地再編 (共同管理、受託体制の整備)
③ 販路の拡大 (新たな販路への着手、販売促進活動の強化・実施)

3 力強い農業・農村の実現

3 持続的で魅力あふれる農業・農村づくり

【専門3】 延岡たまねぎの新たな生産・出荷体制の確立
① 生産性の向上 (安定生産技術の徹底、安定生産体制強化)
② 面積の拡大 (機械化体系の確立)

【専門4】 シキミ産地の維持・発展
① 収量及び品質の向上 (適期防除の実施、施肥技術の検討、改善)

IV プロジェクト設定の手順

普及事業の計画・実績
検討に係る組織

○普及事業推進協議会

(延岡市(3総合支所含)、
農業委員会、JA延岡、
NOSAI、土地改良区、
県(振興局・普及センター))

+

○農業経営指導士会

(生産者代表)

12~3月 普及計画(案)作成及び実績の検討
(本課、振興局との協議・専技との調整)

↑ 意見を反映

2~3月

○普及事業推進協議会において実績報告 次期計画の説明・協議
○地区農業経営指導士会で実績報告、次期計画の説明

5月

○普及事業推進協議会において本年度計画の説明
○地区農業経営指導士会で本年度計画の説明

10月 普及計画活動に係る中間検討会(専技、振興局):内部評価



普及事業推進協議会での報告・協議 2月



農業経営指導士会での報告 3月



普及事業推進協議会での現地確認

V プロジェクト1

活力ある農業・農村地域確立のための
多様な担い手の育成とサポート機能の強化

(対象期間: R3～R7)

V-① 普及計画の概要

(現状)

- 高齢化や担い手不足により、産地縮小、経営資源の遊休化が懸念
一方、新規就農希望者や規模拡大志向農家は、農地等の経営資源の確保に苦慮
- 中心的経営体については、経営の維持・発展に必要な労働力の確保が困難

このため、

- **就農希望者の**呼び込みや相談対応をはじめ、農業者研修、就農計画作成等の**支援を充実**させる
- **中心的経営体の維持・発展**に向け、**認定農業者**や**集落営農組織**の能力向上、経営安定に加え、**水稻受託者から要望の高い「農業機械オペレーター」**の養成研修や、**雇用者確保**のための**「農作業体験会」**等の実施による**労力のマッチング**、**経営資源承継**に向けた**取組を進める**。

(普及課題)

1 就農希望者の確保・育成

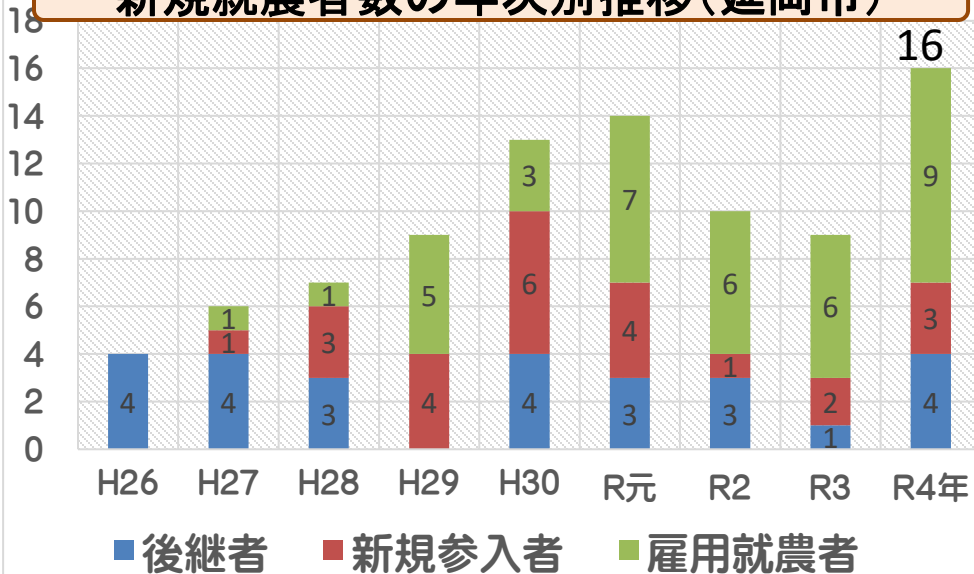
- (1) 就農希望者の確保
- (2) 新規就農者の育成・定着

2 中心的経営体の維持・発展

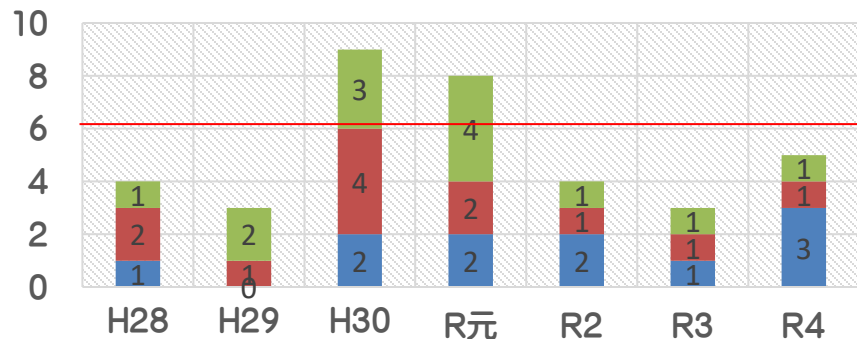
- (1) 経営管理能力の向上
- (2) 集落営農法人組織の経営安定
- (3) 労働力の確保
- (4) 経営資源承継システムの構築

普及課題：新規就農者の確保・育成

新規就農者数の年次別推移(延岡市)



就農支援の事業等で支援を行った就農者等の年次別推移(延岡市)



プロジェクト全体の到達目標

1 年間新規就農者数(5年平均)

5. 6人(R2) ※ ⇒ 6人 (R7目標)

※ 就農支援の事業等で支援を行った就農者の5年平均

2 労働力マッチングシステムによる年間就業者数

0人(R2) ⇒ 12人 (R7目標)

・市で整備運用を開始した農林業労働力マッチングシステムを通じた就業目標

**ENJOY!
WORK IN
NOBEOKA**

宮崎県延岡市

市マッチングwebサイト
「のべワーカー」

V-① 普及計画の概要

年度別計画

(○:連携先)

普及課題		R3	R4	R5	R6	R7	市町村	JA	試験研究	民間その他
1	<p>新規就農者の確保・育成</p> <p>(1) 就農希望者の確保 (2) 新規就農者の育成・定着</p> <p>【成果目標】 新規参入者数 1人(R2) → 1人(累計5人)(R7)</p>						○	○		○
2	<p>中心的経営体の維持・発展</p> <p>(1) 経営管理能力の向上 (2) 集落営農組織の経営安定 (3) 労働力の確保 (4) 経営資源等承継システムの構築</p> <p>【成果目標】 オペレーター人材育成数 0人(R2) → 1人(累計5人)(R7)</p>						○	○		○

担い手支援のサポート体制

＝新規就農者の確保・育成＝

延岡市農業再生協議会 担い手対策推進部会

【構成員】 延岡市総合農政課、JA延岡、普及センター、振興局農政水産企画課
(連携 農業委員会)

相談者

■相談窓口:(即時共有)
延岡市、JA延岡、
普及センター

再生協
担い手対策推進部会



定例会の開催

■農業体験

・延岡市お試し就農、JA延岡いきいき農業実践塾

■管内研修先(JA延岡として研修機関認定)

- ・JAトレーニングハウス(スナップエンドウ+ズッキーニ)
- ・延岡地区施設野菜研究会(いちご、きゅうり)
- ・シキミ部会

□県域研修先(みやざき農業実践塾等)

■就農準備支援

- ・就農計画作成支援
- ・補助事業、支援制度、農地、施設、資金等
- ・農業者研修(県域、地域)、先進経営視察

■新規就農定着支援

- ・フォローアップ巡回(国・市の事業活用者)
- ・新規就農研修、先進経営視察

V-② 主な取組と現在の状況

普及課題：新規就農者の確保・育成

1 重点対象集団

認定新規就農者及び予定者

2 主な取組

(1) 就農希望者の確保

令和3年度

- 担い手対策推進部会において、新規就農希望者向けガイドブック「のべおか農活ライフ」を作成し、就農相談会で活用
- 地域外相談会への初参加（宮崎市 相談後1名が研修に）

令和4年度

- 県外相談会への初参加（相談者3名）
- 研修受入農家に対する支援研修の開催（1回）
 - ・研修生等と合同で管外先進経営体を視察
- 管内の中古ハウスの調査
- 新規就農者の施設整備事業の活用に向けた検討



受入農家と研修生等と合同の視察研修（宮崎市 きゅうり経営）

V-② 主な取組と現在の状況

普及課題：新規就農者の確保・育成

1 重点対象集団

認定新規就農者及び予定者

2 主な取組

令和4年度

(2) 新規就農者の育成・定着

■ 経営開始型の交付対象者 現地確認(2回)

巡回対象を市の事業対象者にも拡大

■ 個別指導(技術・経営)新規就農者等

■ 宮崎方式営農支援体制の農業者研修

※農業者研修の周知・受付に関して、ひなたMAFiNや電子申請システム(QRコード)を活用

そのほか

○ 農業経営指導士と普及センターとの主催による

「農業経営指導士と新規就農者等との意見交換会」

を開催 ※新規就農者等の参加者が17名



サポート班での巡回



農業者研修



農業経営指導士と新規就農者等との意見交換

V-② 主な取組と現在の状況

普及課題：新規就農者の確保・育成

2 主な取組

現在の状況(令和5年4月から現在まで)

■研修体制の充実・強化

(1) JAトレーニングハウス研修体制の支援

①研修カリキュラム、受入式開催

②定例会の開催支援(指導農家を招聘)

(2) 先進農家研修の研修 修了式の実施

(3) 農業者研修の実施 ①ハウス基礎研修、②先進農家視察等を実施



JAトレーニングハウス研修生受入式(R5年4月)

■就農に向けた円滑な施設整備の支援

・補助事業や施設整備の進捗に合わせた栽培開始時期の調整等

・研修生、事業担当や融資関係部署を集めた、ワンストップの会議で進捗確認(普及がコーディネーター)

3 成果目標の達成状況

新規参入者数(かつ認定新規就農者)

1名(R2) ⇒ 1人(累計1人)(R4実績) (R7目標:累計5人)

※R3:0人、R4:1人、R5見込:2人(累計3名)

V-② 主な取組と現在の状況

普及課題： 中心的経営体の維持・発展 (3) 労働力確保

1 重点対象集団

延岡地域稲作研究会(35戸) ⇒ オペレーター養成研修

延岡地区施設野菜研究会(6戸) ⇒ 市お試し就農

JA延岡玉ネギ部会(中核農家12戸) ⇒ 市お試し就農

2 主な取組

「延岡市農業労働力対策確保対策協議会(平成30年度設立)」
と連携した普及活動

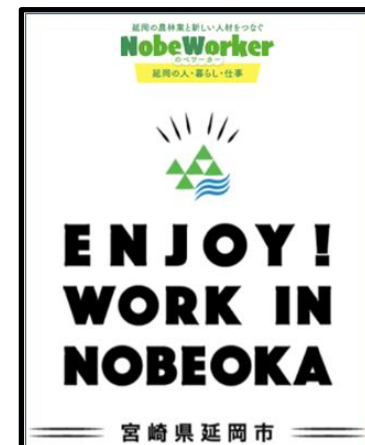
令和3年度

■ 市のマッチングシステムの運用開始、活用の推進

■ 農福連携 見学会及び体験会の実施

■ 「農福連携ガイドブック」を作成

マッチングの参考となる主要品目の作業スケジュール一覧、
作業マニュアル、福祉事業所の紹介



市マッチングwebサイト
「のべワーカー」



農福ガイドブック

V-② 主な取組と現在の状況

普及課題： 中心的経営体の維持・発展 (3) 労働力確保

1 重点対象集団

延岡地域稲作研究会(35戸)
延岡地区施設野菜研究会(6戸)
JA延岡玉ネギ部会(中核農家12戸)

2 主な取組 令和4年度

- 農業機械オペレーター養成研修を3年ぶりに開催
(令和4年9月末、令和5年1月)
稲作研究会員及び協力メーカーを講師として
延べ12名が参加(うち1名がオペレーターとして活動)
- 雇用者の確保に向け、農作業体験研修(延岡市お試し就農)を開催
かんしょ(4名)、たまねぎ(11名)の収穫体験を実施
- 農福連携見学会・体験会の実施による作業受委託の推進(ぶどうの袋かけ、ネギの除草、いちご摘花)



R4 農業機械オペレーター養成研修



R4 たまねぎの収穫体験

V-② 主な取組と現在の状況

普及課題： 中心的経営体の維持・発展 (3) 労働力確保

1 重点対象集団

延岡地域稲作研究会(35戸)
延岡地区施設野菜研究会(6戸)
JA延岡玉ネギ部会(中核農家12戸)

2 現在の状況(令和5年4月から現在まで)

■ 農業機械オペレーター養成研修の企画・実施

1回目:10月25日～26日 2回目:令和6年1月予定

※一般募集に加え、農業経験者等にも声かけ開始

■ 農業機械オペレーターの需要に関するアンケート調査を実施

(対象)23経営体:7ha以上の水田営農を行う「稲作研究会員」、「営農集団」等

■ 農作業体験研修(市お試し就農)を開催 9月:きゅうり、10月:かんしょ

3 成果目標の達成状況

オペレーター人材育成数

0名(R2) ⇒ 1人(累計1人) (R4実績) (R7目標:累計5人)



R5 きゅうり農作業体験研修

プロジェクト全体の到達目標の達成状況

○ 年間新規就農者数(※)

※ 就農支援の事業・制度を活用した就農者(5年平均)

R2(基準) 5.6人 ⇒ R4: 5.8人(実績) (R7目標: 6.0人)

R3: 5.4人 (H29~R3の平均値)

R4: 5.8人 (H30~R4の平均値)

○ 労働力マッチングシステムによる年間就業者数(※)

※ サイト活用で就業に至った就業者数(農福連携を除く)

R2(基準) 0人 ⇒ R4: 8人(実績) (R7目標: 12人/年)

R3: 11人 (活用件数: 7件)

R4: 8人 (活用件数: 6件)

(R4: ズッキーニ、いちご、たまねぎ、飼料作、水稻、麦、シキミ)

V-③ 今後の課題と対応方向

1. 新規就農者の確保・育成

【令和5年度】

■ 今後の課題

- ・補助事業によるハウス整備を行う場合の、作付計画に支障の出ないサポートの実現

■ 対応方向

- ・研修生、事業・融資関係部署を含めた会議の適時開催でスケジュールの共有

【令和6年度】

- ・様々な就農パターンを想定した受入体制の整備、移住関係部署との連携強化

2. 中心的経営体の維持・発展 (3) 労働力確保

【令和5年度】

■ 今後の課題

- ・オペレーター研修の継続と即戦力となるオペレーター人材の発掘
- ・農作業体験会(市お試し就農)から、即雇用につながるしくみの構築

■ 対応方向

- ・オペレーター研修受講募集を、農業者(農閑期・規模縮小予定)に広げ募集
- ・市お試し就農募集時や農作業体験時に、パート・アルバイトの意向を確認

【令和6年度】

- ・マッチングに不公平感が生じないように調整機能(オペレーター人材バンク等)の構築

V プロジェクト2

延岡たまねぎの新たな生産・出荷体制の確立

(対象期間: R3～R7)

V-① 普及計画の概要

- 延岡市では、水稻の裏作として超早出しのたまねぎが、生産者105名、作付面積約12haで作付けされている。
- 「みやざき新たまねぎ」として、みやざきブランドの認証を受けており、「葉付きたまねぎ」は1月中旬頃から3月まで、「切り玉たまねぎ」は3月から5月頃まで、県内をはじめ関東、中部地方等へ出荷される。
- 市場評価や需要が高いため、さらなる産地拡大を目指しているが、
 - ① 機械化が進んでいないため生産規模が小さい
 - ② 早期出荷率が低いことにより販売単価が低い
 - ③ 生産者の高齢化が進んでいる
 などの課題があり、生産量及び販売額の減少傾向が続いている。

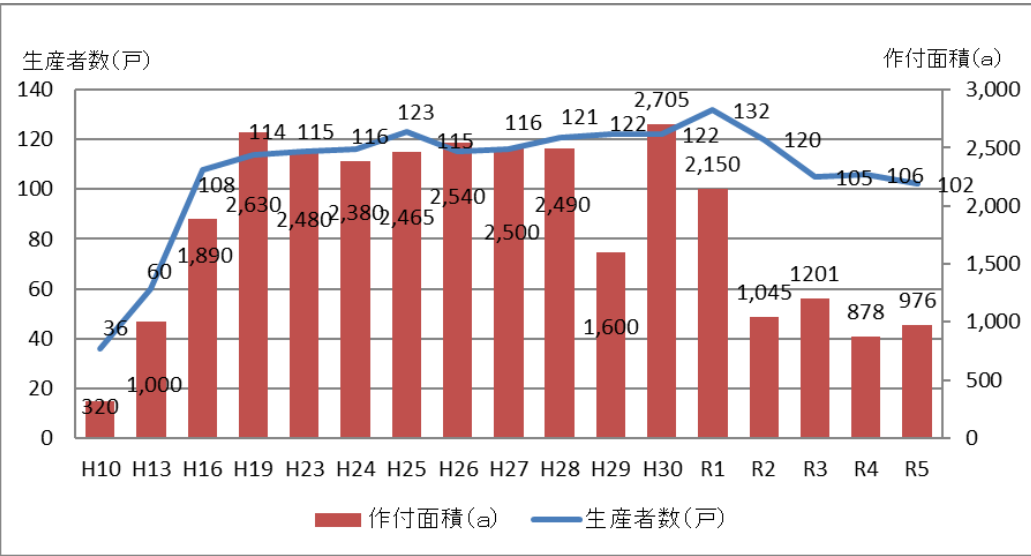


葉付きたまねぎ

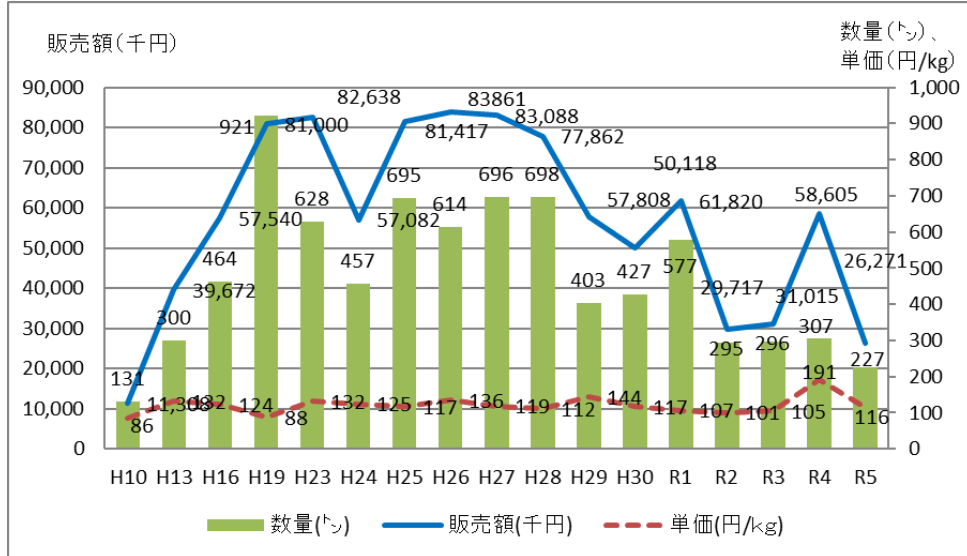


切りたまねぎ

生産者数及び作付面積の推移 (JA延岡玉ネギ部会)



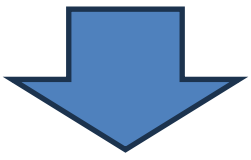
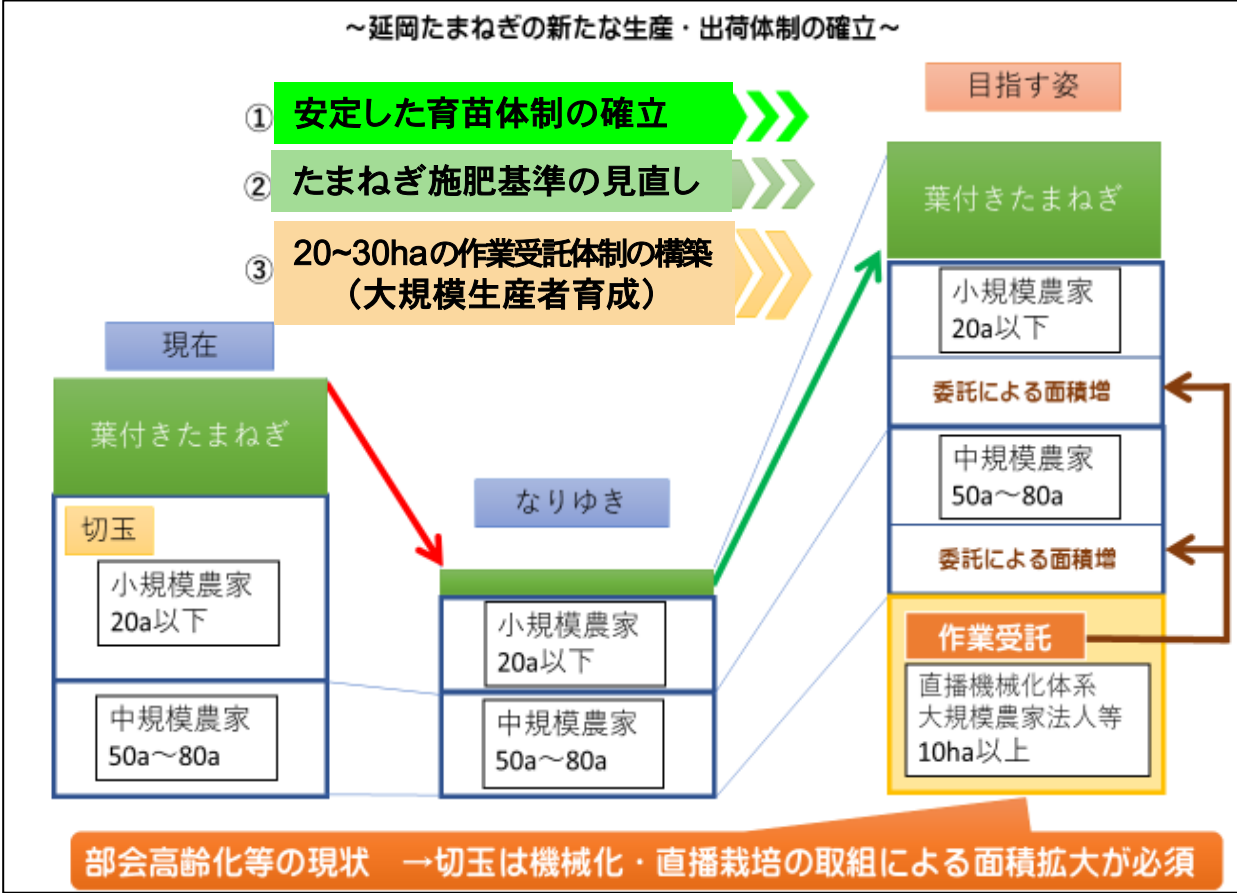
販売額、数量、単価の推移 (JA延岡玉ネギ部会)



V-① 普及計画の概要

根本的な産地構造を変えていくため、

- 既存農家の安定生産技術の強化を図る
 - 大規模栽培を実施可能な法人等を育成する
- 以上により産地全体の面積拡大を図り、産地規模のV字回復を目指す



プロジェクト全体の到達目標

栽培面積
12ha (R2) ⇒ 20ha (R7目標)

生産量
296t (R2) ⇒ 600t (R7目標)

V-① 普及計画の概要

年度別計画

(○:連携先)

普及課題		R3	R4	R5	R6	R7	市町村	JA	試験研究	民間
1	<p>生産性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 安定生産技術の徹底 出荷販売体制の強化 <p>【成果目標】 たまねぎ生産量 296t(R2) → 600t(R7)</p>						○ 事業	○ 苗供給		
2	<p>面積の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 機械化体系の確立 低コスト栽培の実証 作業受託体制の確立と労力支援 <p>【成果目標】 栽培面積 12.0ha(R2) → 20.0ha(R7)</p>						○ 事業	○ 販売	○ 国・県	○ 機械開発

V-① 普及計画の概要

年度別計画

(○:連携先)

普及課題		R3	R4	R5	R6	R7	市町村	JA	試験研究	民間	
1	<p>生産性の向上</p> <p>・安定生産技術の徹底 ・出荷販売体制の強化</p> <p>【成果目標】 たまねぎ生産量 296t(R2) → 600t(R7)</p>										
		<p>・適正施肥（生産安定） ・品種の充実（品質安定） ・苗の安定生産 ①</p>									
2	<p>面積の拡大</p> <p>・機械化体系の確立 ・低コスト栽培の実証</p> <p>・作業受託体制の確立と労力支援</p> <p>【成果目標】 栽培面積 12.0ha(R2) → 20.0ha(R7)</p>										
		<p>・直播栽培の実証 ① ②</p>									
		<p>・法人による受託体制整備 ② ・農福連携等による労力支援 ②</p>									

供給

売 機械開発

【R2年度外部評価会においてのご意見】

- ① 育苗時の台風や浸水害など、天候の影響への対策を関係者連携して講じて欲しい
- ② 高齢農家への農作業受託や労力支援を講じ、部会全体の拡充を図って欲しい

V-② 主な取組と現在の状況

普及課題：生産性の向上

1 重点対象集団

JA延岡玉ねぎ部会(105戸)

2 主な取組内容

令和3年度～令和4年度

■低コスト新肥料を採用（適正施肥の推進）

温暖化により肥効が不安定となり生育が不安定になっていた部会基準肥料を見直し、低コストな新肥料を採用した。

新肥料説明会、地区別栽培講習会を通して肥培管理の徹底を指導。

■苗の安定供給体制の強化

台風被害の多いJA育苗センターのほ場を分散し、リスク分散を図るとともに、自家育苗生産者に育苗資料を配付し管理の徹底を図った。

■葉付きたまねぎ品種の追加

部会創設以来1品種に限られていた「葉付きたまねぎ」品種を、食味試験の結果等から有望1品種を選定し、部会で承認された。

■JAによるネット販売が本格的に開始された。

3 成果目標の達成状況

数量296t（R2年産） → 数量227t（R4年産）

※R7(目標) 600t



新肥料説明会



食味試験のようす

参考 【R2年度外部評価時】今後の課題と対応方向

- 「トップゴールド」を補完する葉付き向け品種の選定
- 分球を軽減する施肥体系の確立と普及
- 低コスト肥料の開発と普及による所得の確保
- 育苗技術の向上と育苗体制の構築

完了

- 機械化一貫体系の確立
 - ・直播き栽培の検討(無マルチ、除草剤体系)
 - ・延岡市の現地条件に適合する収穫機械の運用方法や畝高等の栽培様式の検討
 - ・直播き栽培に向く品種の選定
- 機械定植後の除草剤を活用した無マルチ栽培の検討
- 機械化による大規模経営体の育成
- 定植や収穫作業といった農繁期の労力支援体制の整備

V-② 主な取組と現在の状況

普及課題：面積の拡大

1 重点対象集団

JA延岡玉ねぎ部会(105戸)

2 主な取組内容

令和3年度

■ 直播栽培の導入

市の事業を活用し、直播栽培用播種機の試験導入を行い、大規模栽培の現地実証を行った。

■ 作業受託法人の育成

オペレーターがいる法人を大規模農家・作業受託者として育成し、団地化検討や作業速度など受託体制に必要なデータ収集を実施。

■ 農福連携作業の取組の支援を実施

令和4年度

■さらなる作業の省力化に向け、収穫関連機械の実演を行った。

■直播機から収穫機械までの延岡に合った機械化体系が完成した。

3 成果目標の達成状況

面積の拡大

12.0ha(R2年産) → 9.6ha(R4年産)

※R7(目標)20.0ha



直播栽培の現地実証



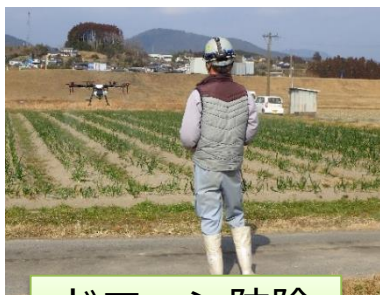
農福連携による収穫作業の様子

V-② 主な取組と現在の状況

(参考) 機械化体系



直播栽培



ドローン防除



堀取機



ピッカー



茎葉処理機

機械移植



セル苗

作業の受託が可能となる！



従来の体系



地床育苗



動噴散布



手収穫



鉄コンテナ
出荷

参考 【R2年度外部評価時】今後の課題と対応方向

- 「トップゴールド」を補完する葉付き向け品種の選定
- 分球を軽減する施肥体系の確立と普及
- 低コスト肥料の開発と普及による所得の確保
- 育苗技術の向上と育苗体制の構築

- 機械化一貫体系の拡大
 - ・ 直播き栽培の検討（無マルチ、除草剤体系）
 - ・ 直播き栽培に向く品種の選定
- 機械定植後の除草剤を活用した無マルチ栽培の検討
- 機械化による大規模経営体の育成
- 定植や収穫作業といった農繁期の労力支援体制の整備

機械化体系
完成
～継続

面積拡大に向けた、延岡の機械化体系が出来た！

V-③ 今後の課題と対応方向

(令和5年度)

<生産の安定>

- セル苗育苗の試験実施
- 低コストで無マルチ移植栽培の実証ほを設置
- 市場と連携した契約出荷による単価安定

<面積の拡大>

- 直播機のJA部会での共同利用の開始
- 受託法人への機械事業導入
- 労力支援対策(農福連携)の継続実施

(令和6年度)

- 受託体制の本格稼働
- 機械収穫体制の普及
- 市場と連携した契約出荷の検討による単価安定

地床育苗



セル苗育苗

